

凍霜害対策万全に

生育が進むに伴い 凍霜害の影響を受けやすく、とくに開花期から落花後 20 日ごろまでが低温に最も敏感な時期で、被害の確率も高くなります。いまのうちから燃焼資材などを準備して防霜対策には万全を期してください。

また、開花期の降霜など不慮の事故に備え、花粉を準備しておき人工授粉ができる体制にして、結実の確保と品質の向上を図りましょう。

さらに、開花直前まではモニリア病、黒星病、ハマキムシ類などの防除適期なので、生育に合わせて定期散布を行います。天候不順で生育が遅れ、散布間隔が 10 日以上開き過ぎた場合は特別散布をします。

また、腐らん病は、園地巡回を強めて発病部の早期発見に努め、直ちに処置を施してください。

